



AOS Japan Spring Meeting

4.8.2011 神奈川県歯科医師会館

<例会スケジュール>

10:00~ 未定

Dr 高橋 恭久

12:00~ Lunch Break

13:00~ 『Sinus approach case を考察する～ヒョンヒー大学セミナーを終えて』

Dr 渡邊 隆彦

前回のSinus Liftの発表のつづきでFinalまでの検証、反省すべき点を発表させていただきます。
今回、韓国 Kyung-Hee 大学での研修の感想もしたいと思います。

13:30~ 『咬合崩壊途中をくいとめ、咬合の再構築を行った症例』

Dr 田中 志歩

上顎を多数歯失っているのが原因で、他院にて2年前に治療し終えたロングスパンのブリッジが壊れてきている患者様に対し、今どのような状態であるかを咬合・審美の面から診査診断し、改善していった症例を報告させていただきます。

14:00~ Coffee Break

14:15~ 『上下顎欠損部に磁性アタッチメントを使用した

インプラントオーバーデンチャーの1症例』

Dr 宝崎 岳彦

【目的】多数歯欠損に対し、インプラントオーバーデンチャーにてマグネットアタッチメントを使用し、咬合再構成を行った症例を報告する。

【概要】患者50歳代女性、歯周病にて上顎は全て抜歯。下顎は 33,35,43 を保存した。経済的理由と Class IIIの咬合状態により 13,23,45 にインプラント埋入、オーバーデンチャーを装着した。

【結果】オーバーデンチャーを装着したことにより、今まで食事に関心がなかったが、食事が楽しくなり、リップサポートの改善により審美性が向上し社交性が上がり、非常に満足している。

【考察】Anaka & Hoshino の分類において上顎を T type R 下顎を T type SR に設定、必要最小限のインプラント本数で咬合を再構成した。Weng & Richter によると、上顎前歯部の2本のインプラントでオーバーデンチャーを支持することは危険な処置であることが示されており、長期的な臨床経過を追跡して検証する必要があると考える。

【結論】今回の症例は少数本数のオーバーデンチャーとしたが、将来的にフィクスチャー追加の可能性が考えられる。



14:45~ 『復位性円板転位を伴う義歯患者への治療用義歯を用いたアプローチ』

Dr 清水 真一郎

不良義歯を長期間使用してきた患者に対しては通法だけでは顎位を決定できない場合がある。そこで治療用義歯が必要となるわけだが、どのようなデザインで治療用義歯を作り、また何をもって顎位決定の目安とするのか、判然としていない。10年以上前ではあるが、このことをテーマに取り組んだ、ある義歯症例を紹介する。

15:15~ Coffee Break

15:30~ 『ロストしたショートインプラントから考察する』

Dr 柴垣 博一

ここ数十年、数多くのインプラントが臨床応用され、良好な結果をしめしています。しかし、十分な歯槽高径がない骨へのインプラント埋入は解剖学的に制限が生じ、一般的に上顎や下顎臼歯に認められます。その手法として歯槽骨延長術や下歯槽神経移動術等が行われてきたが、現在はショートインプラントの埋入が多くの特長を有することから、より適切な方法とみなされてきています。多くの研究でショートインプラントの喪失率は高いと報告されていますが、一方、最近ではショートインプラントは予後良好で、長いインプラントと同様の成功率を示すと報告されてもいます。

今回、右下6番にストローマン6mmインプラントを応用し、補綴終了後3ヶ月でロストしたインプラントを通してその原因と課題を考察してみたいと思います。

16:00~ 『症例を考える：①意識消失の既往、②抗血栓療法』

Dr 櫻井 誠

全身管理は推理小説のように面白い。体の仕組みに全てが明らかにされていないから、多数例から得られた事柄やその理由が重要となる(Evidence based medicine)。患者さんの全身状態が十人十色だから答えは1つとは限らない。個々の患者さんに合わせた医療も行う事も重要となる(Experience based medicine)。2つの症例を通して、そんな事を考えて行ければと思います。

16:30~ 総括 Dr高橋 恭久

17:00~ 閉会

17:30~ コンセンサス会議